

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2019年 8月 27日

学籍番号	19PDB05	所属	体育科学研究科
氏名	有井さやか		
学会等名 (正式名称)	INTERNATIONAL CONFERENCE ON BIOMECHANICS IN SPORT, 2019		
開催日程	2019年7月21日 ~ 2019年7月25日		
開催場所 (国・都市名)	The United States of America・OHIO		
発表演題名	THE STANDARD MOTION MODEL OF A BASKETBALL SET SHOT FOR TEACHING		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> 女性の研究者が多かった。ケガや様々なデバイスに関する研究が多く、試合等でパフォーマンスのデータを収集し分析する研究は少なかった。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> バスケットボールの研究では、NBA 選手の体力測定結果を分析したもの、疲労によるフリースローのパフォーマンス変化、加速度計を用いた疲労の計測の研究発表があった。 スポーツ技術を計測し、評価診断するような研究はあまり行われていないようだった。</p> <p><自身の発表への質問・コメント></p> <ul style="list-style-type: none">・標準動作を作る意味は何か？・NBA 選手のシュート動作は2種類に分けられ、脚を使うもの、腕の力でシュートしているものがあると思う。どう考えているか？・リリース姿勢が重要という根拠のデータはどれか？・リリースの前の準備姿勢や、Mid point 姿勢を教える必要があるのではないか？・いずれ中学生専用、一般向けの動作、プロ選手など様々なモデルが必要になる。・標準動作を作ってポイントを見つけ出し、標準動作を頭に入れることでいい指導を目指すという視点は GOOD IDEA!! だね。・僕にシュート動作を教えてください! こんな感じ?? (実演)		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後2週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。